

会長 あいさつ

宮ノ下明大

会員の皆様、関係されている企業の皆様、日頃から本学会の活動に多大なるご協力いただき、誠に有り難うございます。杉山真紀子前会長から引き継ぎまして、2020年1月より本学会の会長を務めさせていただきます。微力ながら、本学会の発展に努力致します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学会は1979年に森八郎博士が中心となり、シロアリ以外の害虫も含めて研究する家屋害虫研究会として発足し、機関誌『家屋害虫』が発刊されました。その後、日本家屋害虫学会の設立、2011年には都市有害生物管理学会と改称して現在に至ります。2020年からは41年目を迎え、この間に家屋を取り巻く都市環境は変化し、有害生物の問題も多様化して、研究対象は益々広がっています。

例えば、最近では、海外からの観光客の増加に伴い、蚊が媒介する病気の都市での流行が懸念され、トコジラミによる人への被害の増加が問題になっています。また、日本各地の湾岸地域では、海外からのコンテナ輸送により、ヒアリをはじめとした外来性のアリ類の侵入が発見されています。都市は、その土地本来の有害生物を抱えながら、常に新しい生物の侵入にさらされています。

本学会の会員の皆様は、常に情報を更新しながら、直面する問題に対応する必要があるかと思えます。また、目新しい情報のみではなく、有害生物の分布や生態研究の積み重ね、事例報告は、地味ですが本学会の基盤となる重要な知見として欠かすことはできません。

本学会の活動に必要な情報更新の手段は、学会大会での活発な意見交換であり、本学会の学会誌『都市有害生物管理』に掲載される論文であろうと思えます。私は、新しい調査方法、防除資材、防除技術、管理体系等の幅広い情報を皆様に提供できる学会運営を目指したいと思えます。そのためには、皆様の研究や経験を是非、学会大会での発表や、論文として積極的に公開していただくことをお願いいたします。今後、会員間のネットワークを築き上げることに努力することで、学会活動の活性化や学会誌の充実に繋がると期待しております。

今後とも、皆様のご指導・ご協力の程を何卒よろしくお願いいたします。

2020年1月6日